

大阪経済の情勢

(平成26年6月指標を中心に)

平成26年8月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、基調としては緩やかに回復している」

需要面では、個人消費は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられているが、基調としては緩やかに回復している。大型小売店販売額、家電販売額(5月)、新車販売台数は減少したが、コンビニ販売額は増加した。家計消費支出(近畿)は増加。投資は、緩やかに持ち直している。住宅投資、非居住用建設投資はともに増加した。公共投資は増加。輸出はこのところ増勢が鈍化している。輸出額は16ヶ月連続で増加。主要国向けでは中国、EU、アメリカ向けで増加。輸入額は2ヶ月ぶりの増加。取扱貨物量は、関空、大阪港はともに増加。

供給面では、生産動向は持ち直している。大阪府(5月)は、生産、出荷はともに上昇。近畿の生産(5月)は上昇、全国の生産(6月)は低下。在庫循環は意図せざる在庫増局面。雇用は改善している。所定外労働時間(5月)は増加したが、近畿の失業率は悪化。有効求人倍率、新規求人倍率はともに上昇。倒産では、件数は改善、負債金額は悪化。

先行きについては、景気動向指数(先行)は低下。今後は、消費税率引き上げ後の反動減、海外経済の動向等に引き続き注意が必要。

		需要							
総合		消費				投資		貿易・貨物	
一致CI(大阪)		大型小売店販売(大阪)	コンビニ販売(近畿)	家電販売(近畿)	新車販売(大阪)	新設住宅着工(大阪)	建築物着工(大阪)	輸出(近畿)	関空取扱貨物量
6月	↑	↓	↑	↓	↓	↑	↑	↑	↑
5月	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑

		供給				その他
生産		雇用		倒産	観光	
生産指数(大阪)	生産指数(全国)	有効求人倍率(大阪)	失業率*(近畿)	倒産件数*(大阪)	関空外国人旅客	
6月	↓	↑	↓	↑	↑	
5月	↑	↑	↑	↑	↑	

※前年同月と比較し、上向き矢印は「景況改善」、下向き矢印は「景況悪化」。ただし、一致CI、生産指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。失業率と倒産件数は、減少・低下が景況改善となり、上向き矢印となる。

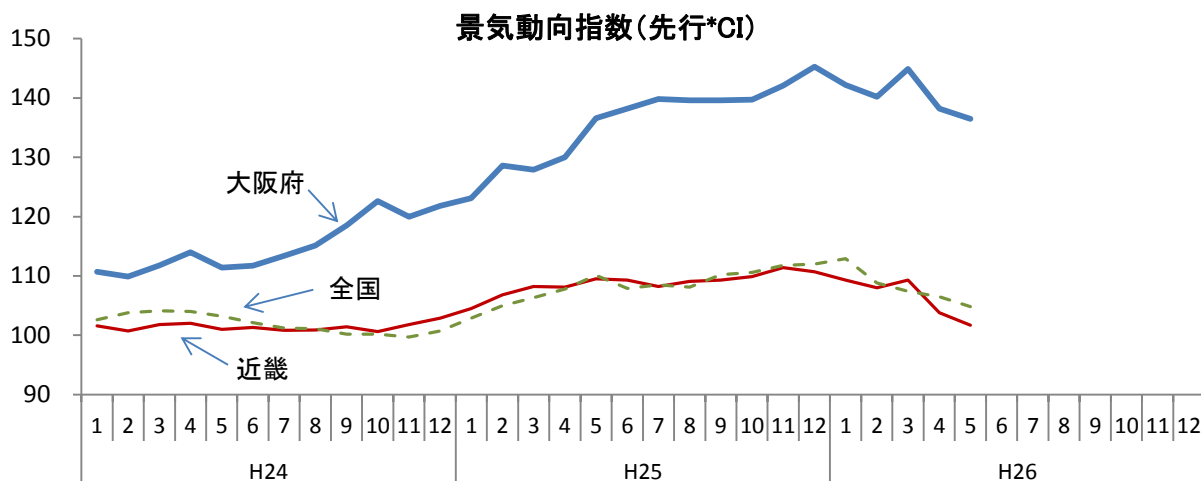
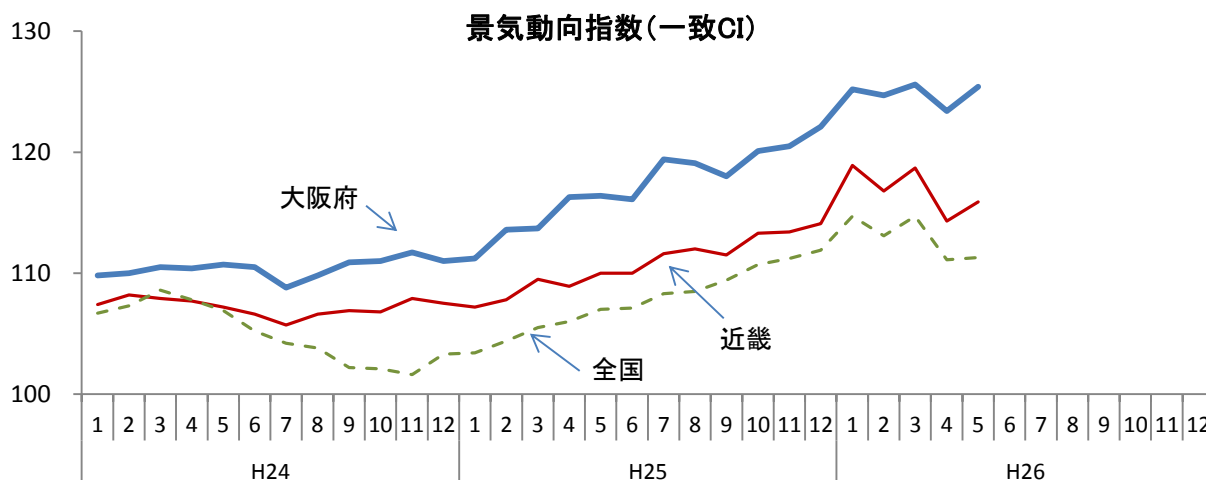
(参考)他機関の総括判断

	前回(26年6月公表分) (26年4月指標中心)	今回(26年7月公表分) (26年5月指標中心)
内閣府 「月例経済報告」	景気は、緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。	景気は、緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。
近畿経済産業局 「近畿経済の動向」	近畿地域の経済は、基調としては着実に持ち直している。	近畿地域の経済は、改善の動きがみられる。
日本銀行大阪支店 「近畿地域金融経済概況」	近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。	近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。

※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(5月)は一致CIは上昇、先行CIは低下。大阪府(一致CI)では、主に「百貨店売場面積当たり販売額」、「所定外労働時間」が上昇に寄与。近畿(5月)は一致CIは上昇、先行CIは低下。全国(5月)の一致は上昇。】



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

※ H22=100。

先行 CI は、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

	一致 CI			先行 CI		
	26年4月	5月	6月	26年4月	5月	6月
大阪府	123.4	P 125.4		138.2	P 136.5	
近畿	114.3	P 115.9		103.8	P 101.7	
全国	111.1	111.3		106.5	104.8	

一致CIの個別系列の寄与度※(大阪府、5月速報)

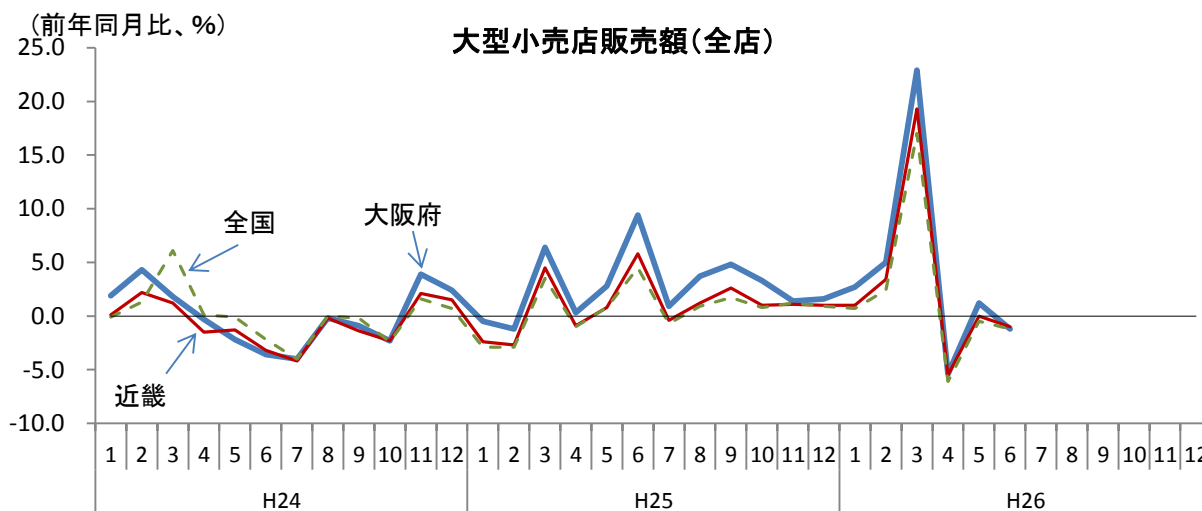
百貨店売場面積当たり販売額	大阪税関管内輸入通関額	製造工業生産指数	生産財出荷指数	関西大口電力使用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間指数(製造業)
1.04	0.28	0.07	0.06	0.02	0.00	0.53

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

[需要] 消費

個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられているが、基調としては緩やかに回復している。大型小売店販売額、家電販売額(5月)、新車販売台数は減少したが、コンビニ販売額は増加した。家計消費支出(近畿)は増加。

○大型小売店販売額(全店)【2ヶ月ぶりの減少。】



(資料) 近畿経済産業局「大型小売店販売状況」、経済産業省「商業販売統計」

大型小売店販売額(全店)

		26年4月	5月	6月
販売額(億円)	大阪府	1,263	1,395	P 1,437
	前年比(%)			
前年比(%)	大阪府	▲5.4	1.2	P ▲1.2
	近畿	▲5.5	0.0	P ▲1.0
	全国	▲6.1	▲0.5	P ▲1.2

大阪府内大型小売店へのヒアリングより(6月)

百貨店、スーパーともに対前年比でマイナスとなった。貴金属などの高額商品や家具・家電等で依然として消費増税の反動減が見られるほか、昨年度より気温が涼しく、紳士服、婦人服共に夏物の伸びが思わしくなかった点、関西では梅雨入り後の降雨量が少なく、傘や雨ガッパ等の雨季関連商品の売上が伸びなかった点も影響している。婦人服では、トレンドの影響で昨年度のショートパンツやレギンスに代わり、スカートが売れ筋となっている。また、衣料品全般でスーパーの方が百貨店よりも4月以降の反動減が顕著である。これは百貨店の方が流行に敏感な顧客が多いため、消費増税に関わらず、トレンドが変われば衣料品や身の回り品の買い替え需要が発生するためと考えられる。飲食料品では米の販売価格が供給過多により対前年同月比で1割前後下がっている。一方、国産和牛や本マグロなど、高品質なこだわり商品の売れ行きは好調に推移している。

百貨店(大阪府)

		26年4月	5月	6月
販売額(億円)		619	699	P 725
前年比(%)		▲7.0	2.7	P ▲0.4

スーパー(大阪府)

		26年4月	5月	6月
販売額(億円)		644	697	P 712
前年比(%)		▲3.8	▲0.1	P ▲2.1

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は16ヶ月連続の増加。】

		26年4月	5月	6月
販売額(億円)	近畿	1,184	1,275	P 1,265
前年比(%)	近畿	4.9	7.1	P 5.5
	全国	4.2	6.4	P 4.9

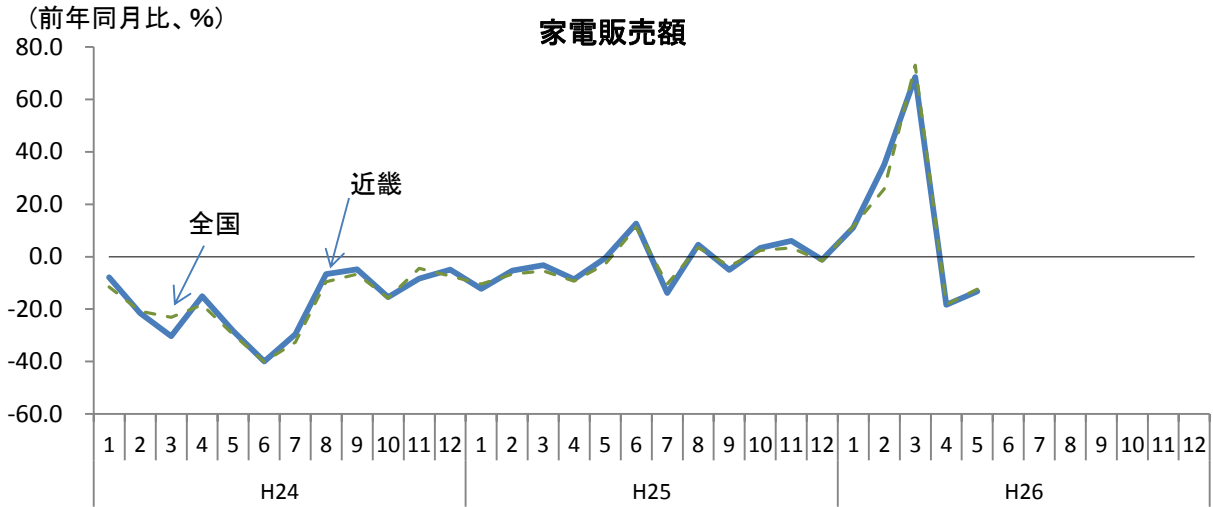
○家計消費支出【近畿は2ヶ月ぶりの増加。】

		26年4月	5月	6月
円	近畿	326,851	286,785	300,622
前年比(%)	近畿	0.3	▲7.6	3.0
	全国	▲3.1	▲4.8	▲0.3

(資料) 総務省統計局「家計調査」 ※二人以上の世帯うち勤労者世帯、一世帯当たりの名目。

[需要] 消費

○家電販売額【近畿(5月)は2ヶ月連続の減少。】



(資料) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

商品別の主な増減(近畿、5月)

		26年4月	5月	6月
前年比 (%)	近畿	▲18.4	▲13.2	
	全国	▲18.2	▲12.4	

「パソコン(本体)」、「掃除機」が前年を上回ったものの、「エアコン」、「携帯電話」、「冷蔵庫」などが前年を下回った。

○新車販売台数【3ヶ月連続の減少。】



(資料) (一社) 日本自動車販売協会連合会、(一社) 全国軽自動車協会連合会

		26年4月	5月	6月
販売額(台)	大阪府	14,277	15,777	19,107
前年比 (%)	大阪府	▲11.8	▲1.0	▲2.1
	全国	▲5.1	▲1.3	0.1

車種別の増減

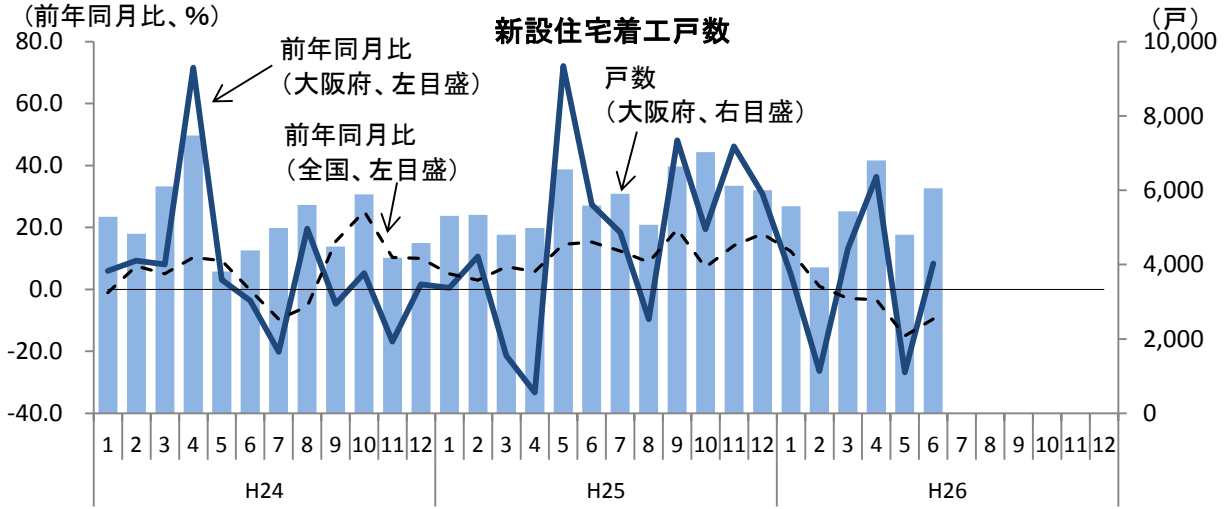
(大阪府、前年同月比(%)、6月)

普通車	小型車	軽自動車
▲8.6	2.5	0.6

[需要] 投資

投資は、緩やかに持ち直している。住宅投資、非居住用建設投資はともに増加した。公共投資は増加。

○新設住宅着工戸数【2ヶ月ぶりの上昇。】



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

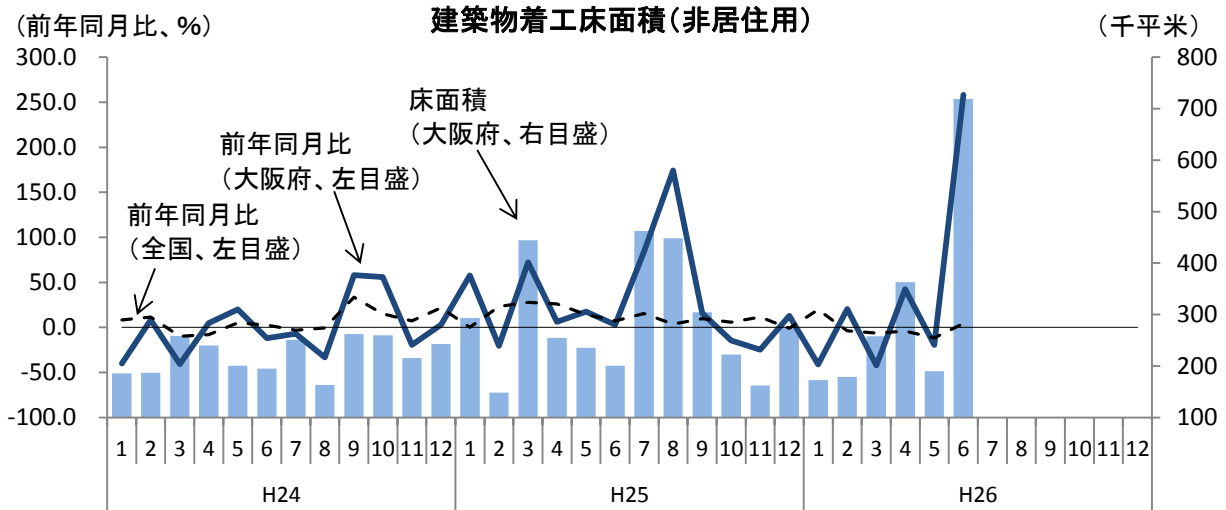
		26年4月	5月	6月
戸数	大阪府	6,802	4,804	6,056
前年比 (%)	大阪府	36.4	▲26.8	8.4
	全国	▲3.3	▲15.0	▲9.5

利用者関係別の増減

(大阪府、前年同月比(%)、6月)

持家	貸家	分譲
▲22.2	113.5	▲37.0

○建築物着工床面積(非居住用)【2ヶ月ぶりの増加。】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

		26年4月	5月	6月
千m ²	大阪府	363	190	719
前年比 (%)	大阪府	42.3	▲19.5	258.2
	全国	▲4.2	▲11.6	4.4

着工床面積の主な増減

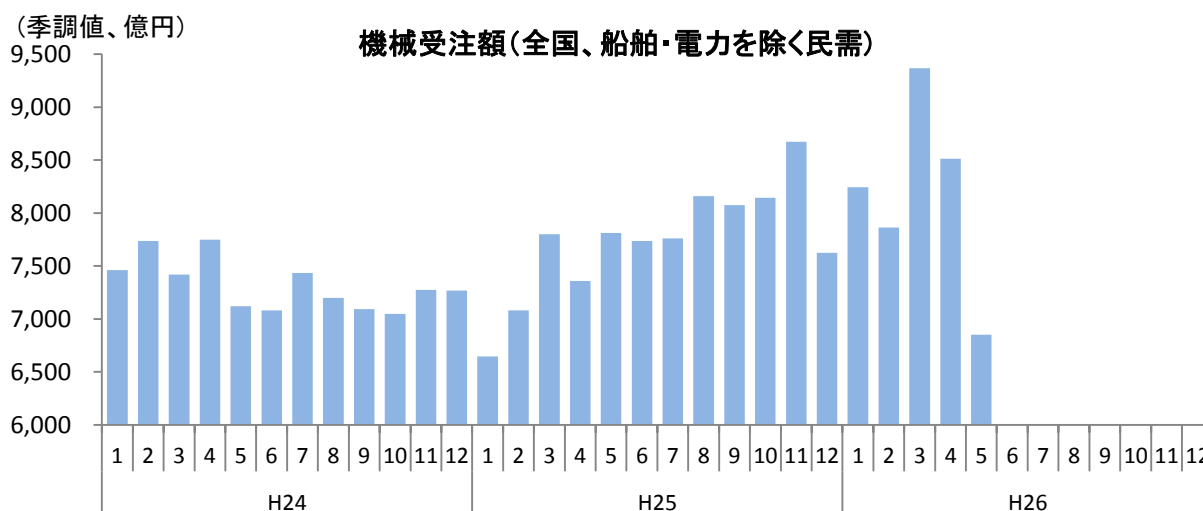
(大阪府、前年同月比の寄与度(%)、6月)

増加	卸売業・小売業(129.8)、 情報通信業(79.3)、医療・福祉(47.1)
減少	不動産業(▲11.5)、 その他のサービス業(▲9.5)

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。

[需要] 投資

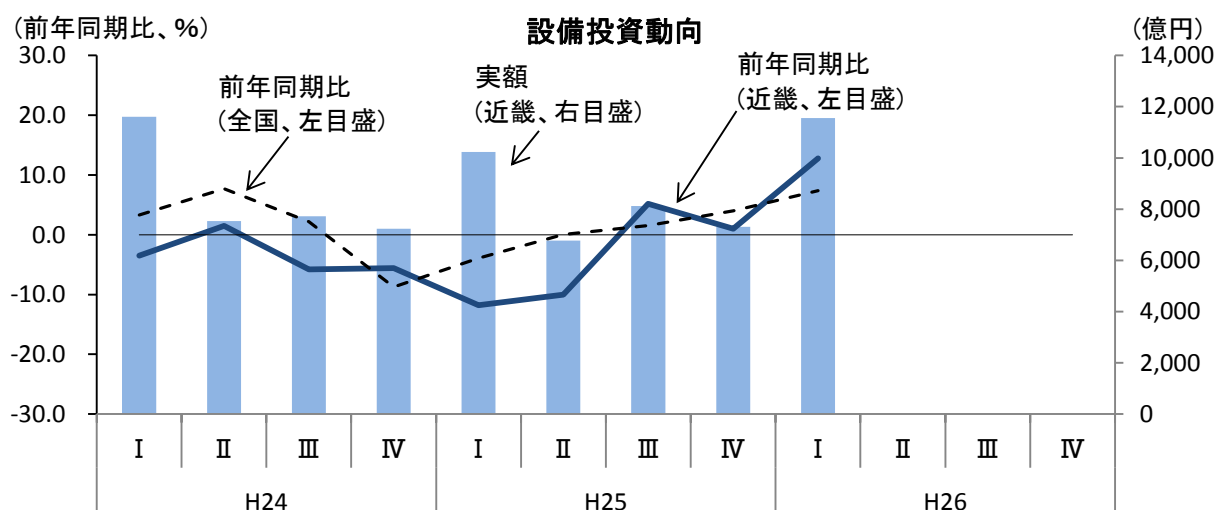
○機械受注額【5月(全国)は大幅に減少。】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」

	26年4月	5月	6月
全国(億円)	8,513	6,853	

○設備投資動向【1~3月期(近畿)は増加。「製造業」、「非製造業」はともに増加。】



(資料)近畿財務局「法人企業統計」、財務省「法人企業統計」

※資本金10億円以上、全産業(金融・保険業を除く)。ソフトウェアを含む設備投資。

		25年7~9月	10~12月	26年1~3月
億円	近畿	8,123	7,308	11,549
前年同期比 (%)	近畿	5.2	1.0	12.8
	全国	1.5	4.0	7.4

○公共工事請負金額【2ヶ月ぶりの増加。】

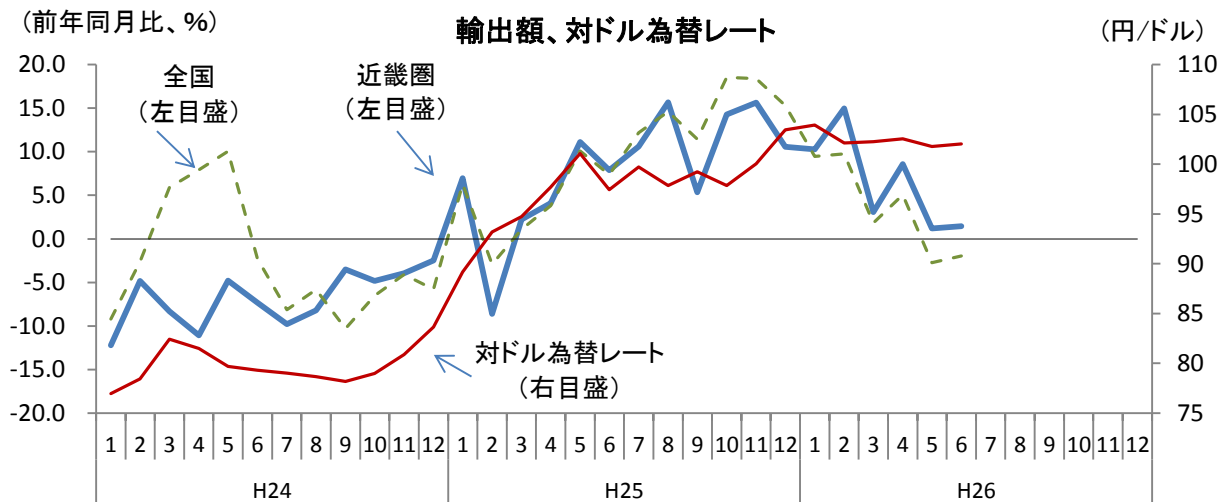
		26年4月	5月	6月
億円	大阪府	574	488	689
前年比 (%)	大阪府	7.8	▲3.5	47.4
	全国	10.0	21.1	14.3

(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事前払保証統計」

[需要] 貿易・貨物

輸出は、このところ増勢が鈍化している。輸出額は16ヶ月連続で増加。主要国向けでは中国、EU、アメリカ向けで増加。輸入額は2ヶ月ぶりの増加。取扱貨物量は、関空、大阪港はともに増加。

○輸出額【16ヶ月連続の増加。「鉄鋼」、「原動機」などが増加。主要国・地域向けでは、中国、EU、アメリカ向けで増加。】



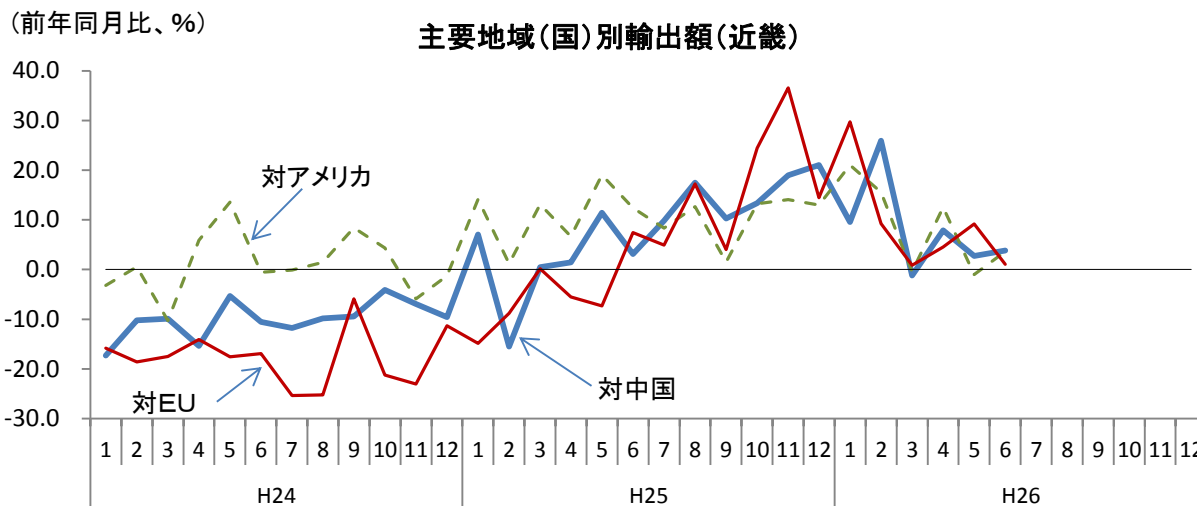
(資料) 大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

		26年4月	5月	6月
輸出額(億円)	近畿	13,127	12,313	P 12,886
前年比 (%)	近畿	8.6	1.2	P 1.5
	全国	5.1	▲2.7	P ▲2.0
為替レート(円/ドル)		102.56	101.79	102.05

品目別の主な増減
(近畿、前年同月からの増減額順、6月)

増加	鉄鋼、原動機、有機化合物
減少	建設用・鉱山用機械、船舶、半導体等製造装置



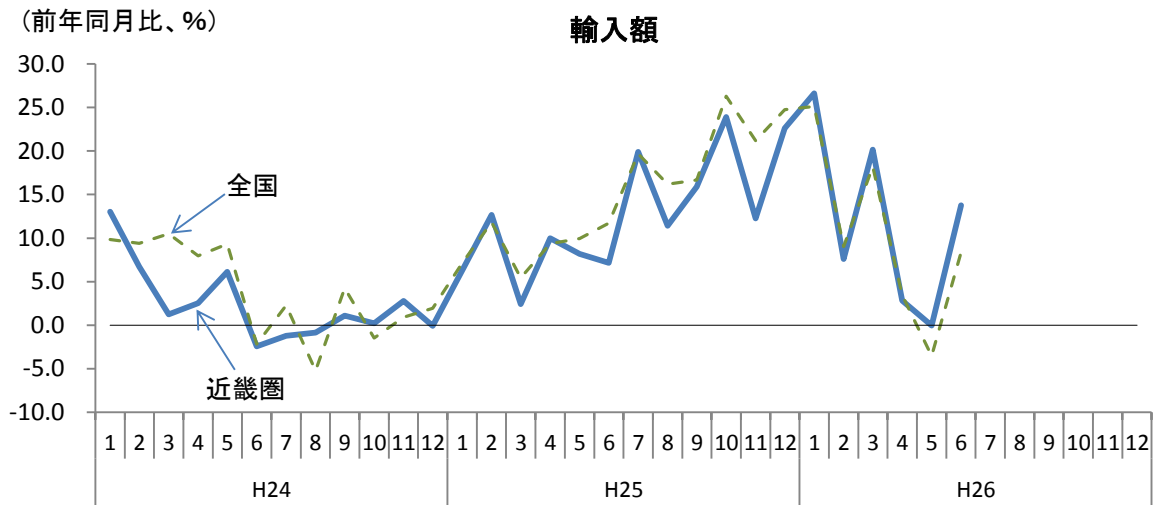
(資料) 大阪税関「貿易統計」

主要地域別輸出額の増減(近畿、前年同月比(%))、6月

アジア(含む中国)	▲0.9	16ヶ月ぶりの減少
中国	3.8	3ヶ月連続の増加
EU	1.0	13ヶ月連続の増加
アメリカ	3.6	2ヶ月ぶりの増加

[需要] 貿易・貨物

○輸入額【2ヶ月ぶりの増加。「原油及び粗油」、「半導体等製造装置」などが増加。】



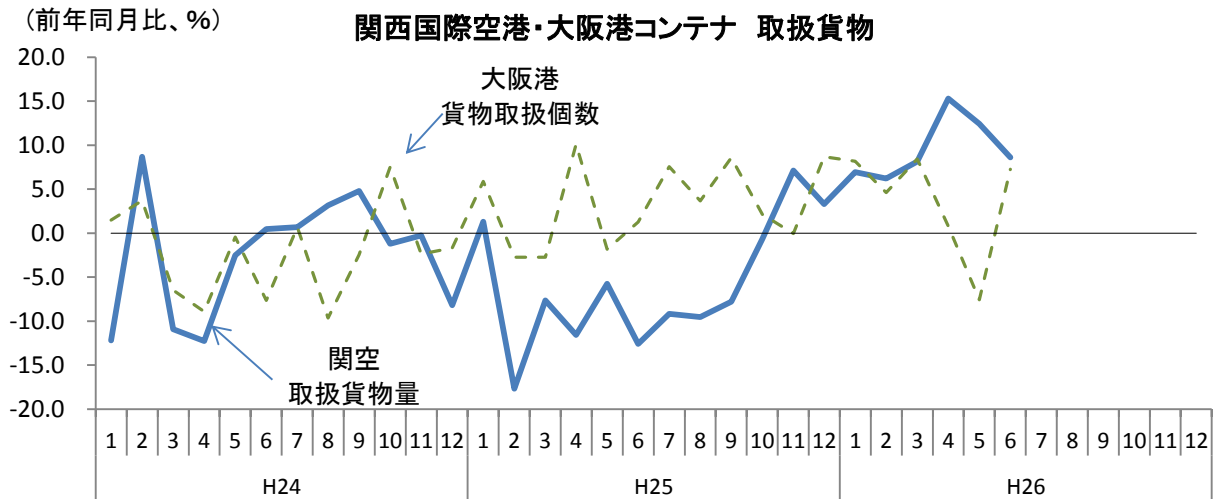
(資料)大阪税関「貿易統計」

		26年4月	5月	6月	品目別の主な増減 (近畿、前年同月からの増減額順、6月)	
輸入額(億円)	近畿	13,234	P 12,590	P 13,103	増加	原油及び粗油、半導体等製造装置、天然ガス及び製造ガス
前年比 (%)	近畿	2.8	P ▲0.0	P 13.8	減少	通信機、事務用機器、たばこ
	全国	3.4	P ▲3.5	P 8.4		

主要地域別輸入額の増減(近畿、前年同月比(%))、6月)

アジア(含む中国)	6.0	2ヶ月ぶりの増加
中国	4.5	2ヶ月ぶりの増加
EU	▲2.2	3ヶ月連続の減少
アメリカ	11.0	2ヶ月連続の増加

○関空取扱貨物量【8ヶ月連続の増加】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【2ヶ月ぶりの増加。】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」、大阪市「港湾統計」

※関西国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貿の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

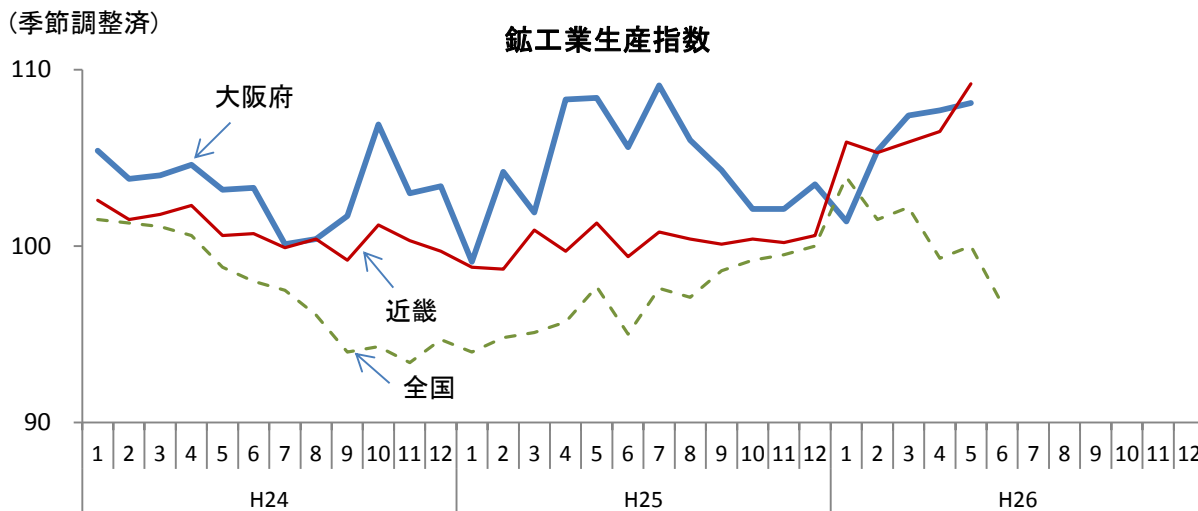
関空取扱貨物量		26年4月	5月	6月	大阪港コンテナ貨物取扱個数	
千トン		60.5	P 60.0	P 57.1	千TEU	P 198 PP 166 PP 184
前年比(%)		15.3	P 12.4	P 8.6	前年比(%)	P 0.8 PP ▲7.6 PP 7.3

※PPは速報値

[供給] 生産

生産動向は持ち直している。大阪府(5月)は、生産、出荷はともに上昇。近畿の生産(5月)は上昇、全国の生産(6月)は低下。在庫循環は意図せざる在庫増局面。

○鉱工業生産指数【大阪府(5月)は4ヶ月連続の上昇。「金属製品」、「食料品」などが上昇。近畿(5月、鉱工業)は3ヶ月連続の上昇。全国(6月、鉱工業)は2ヶ月ぶりの低下。】



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

季調済	26年4月	5月	6月
大阪府	107.7	P 108.1	
近畿	106.5	109.2	
全国	99.3	100.0	P 96.7

産業別の主な変動
(大阪府、前月比(%)、寄与度順、5月速報)

上昇	金属製品(20.9): 橋りょう、鉄骨 食料品(8.1): ビール・発泡酒、チョコレート 石油・石炭製品(21.9): 灯油、ガソリン
低下	電子部品・デバイス(▲11.5): 液晶素子 はん用・生産用・業務用機械(▲2.4): プレス用金型、シヨバル系掘削機械 プラスチック製品(▲6.0): プラスチック製容器(中空成形)、プラスチック製パイプ

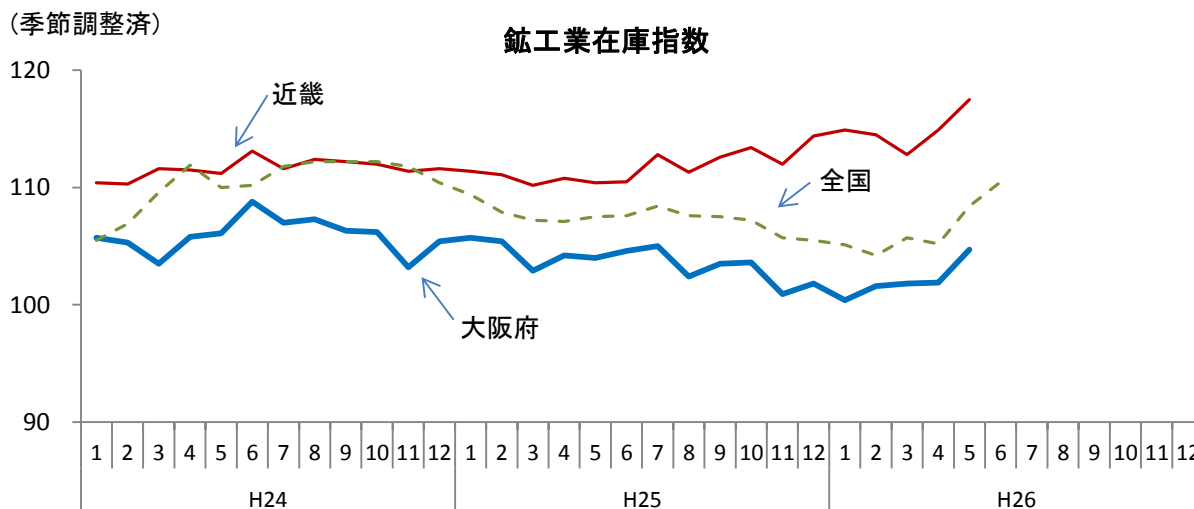
○鉱工業出荷指数【大阪府(5月)は3ヶ月ぶりの上昇。「石油・石炭製品」、「金属製品」などが上昇。近畿(5月)は2ヶ月ぶりの上昇。全国(6月)は5ヶ月連続の低下。】

季調済	26年4月	5月	6月
大阪府	95.5	P 96.9	
近畿	102.4	102.8	
全国	98.0	97.0	P 95.2

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

[供給] 生産

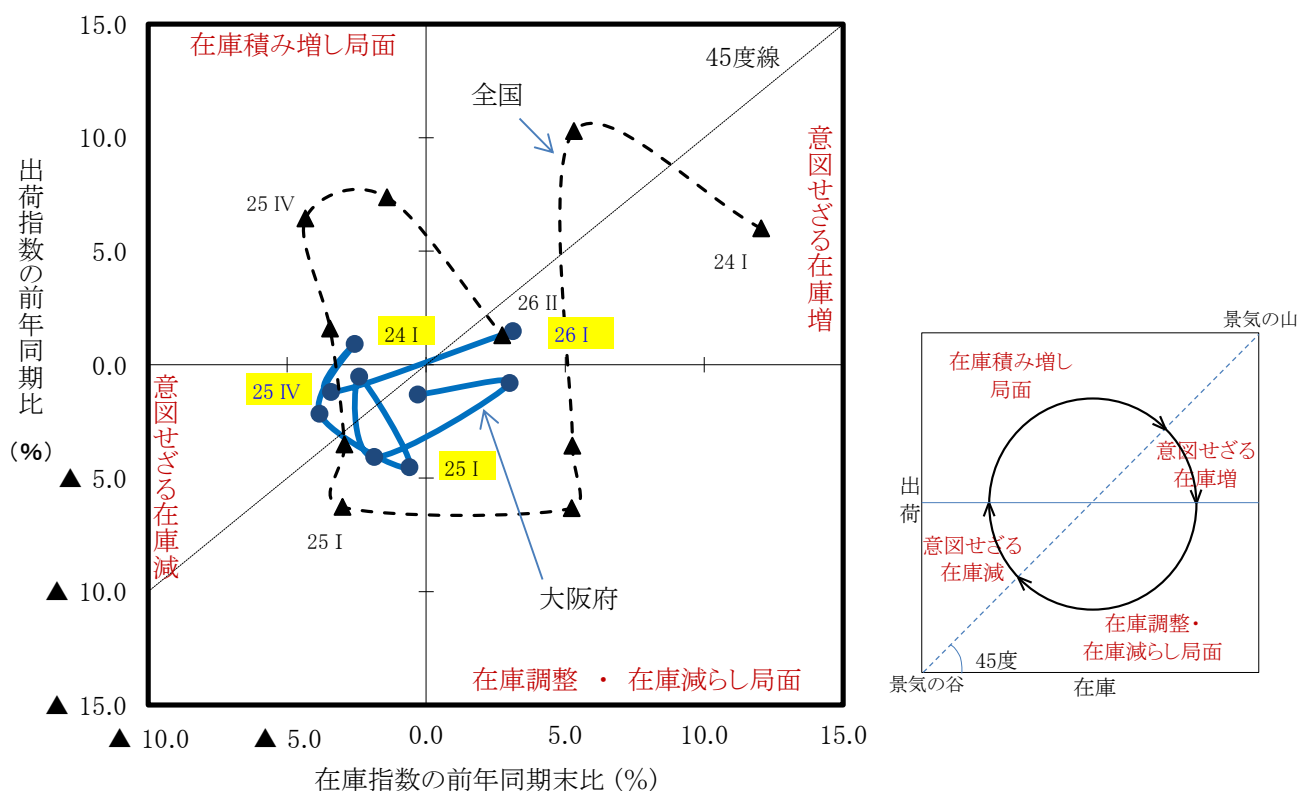
○鉱工業在庫指数【大阪府(5月)は4ヶ月連続の上昇。「はん用・生産用・業務用機械」、「化学」などが上昇。近畿(5月)は2ヶ月連続の上昇。全国(6月)は2ヶ月連続の上昇。】



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

季調済	26年4月	5月	6月
大阪府	101.9	P 104.7	
近畿	114.9	117.5	
全国	105.2	108.4	P 110.5

○在庫循環図【大阪府は意図せざる在庫増局面。全国は意図せざる在庫増局面。】



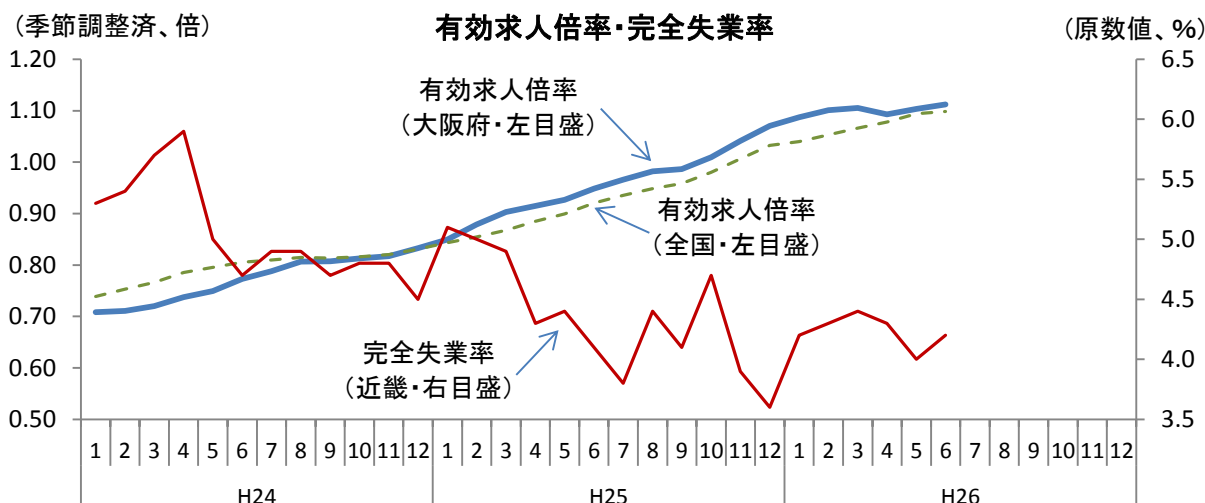
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」
※出荷指数は原数値の四半期平均、在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。
大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給] 雇用・倒産

雇用は改善している。所定外労働時間(5月)は増加したが、近畿の失業率は悪化。有効求人倍率、新規求人倍率はともに上昇。倒産では、件数は改善、負債金額は悪化。

○完全失業率【近畿は前年同月差で2ヶ月ぶりの上昇。】

有効求人倍率【大阪は2ヶ月連続の上昇】、新規求人倍率【大阪は2ヶ月連続の上昇】



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」、総務省統計局「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

完全失業率(近畿、原数値)

	26年4月	5月	6月
%	4.3	4.0	4.2
前年同月差	0.0	▲0.4	0.1

完全失業率(全国、季節調整値)

	26年4月	5月	6月
%	3.6	3.5	3.7
前月差	0.0	▲0.1	0.2

大阪府、近畿及び全国の完全失業率(原数値、%)

	25年7~9月	10~12月	26年1~3月
大阪府	4.4	4.2	4.9
近畿	4.1	4.1	4.3
全国	4.0	3.7	3.7

(資料)大阪府統計課「大阪の就業状況」、総務省統計局「労働力調査」

有効求人倍率(季節調整値、倍)

	26年4月	5月	6月
大阪府	1.09	1.10	1.11
全国	1.08	1.09	1.10

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」 ※パートを含む。

新規求人倍率(季節調整値、倍)

	26年4月	5月	6月
大阪府	1.65	1.69	1.84
全国	1.64	1.64	1.67

若年者の有効求人倍率(大阪府、倍、6月)

24歳以下	1.07
25~34歳	1.06

(資料)大阪労働局「労働市場月報」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む

新規求人数の主要産業別の増減

(大阪府、前年同月比(%), 6月)

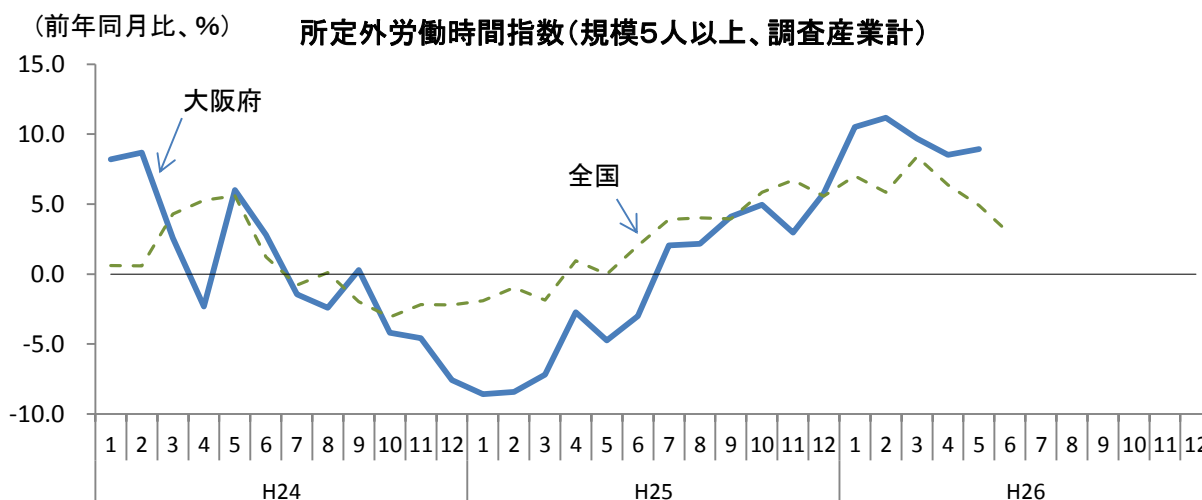
建設業	10.2
製造業	16.6
卸売業、小売業	3.6
宿泊業、飲食サービス業	▲15.6
医療、福祉	18.2

(資料)大阪労働局「求人・求職状況速報」

※新規求人数の増減は原数値での比較

[供給] 雇用・倒産

○所定外労働時間指数【大阪府(5月)は11ヶ月連続の増加。】



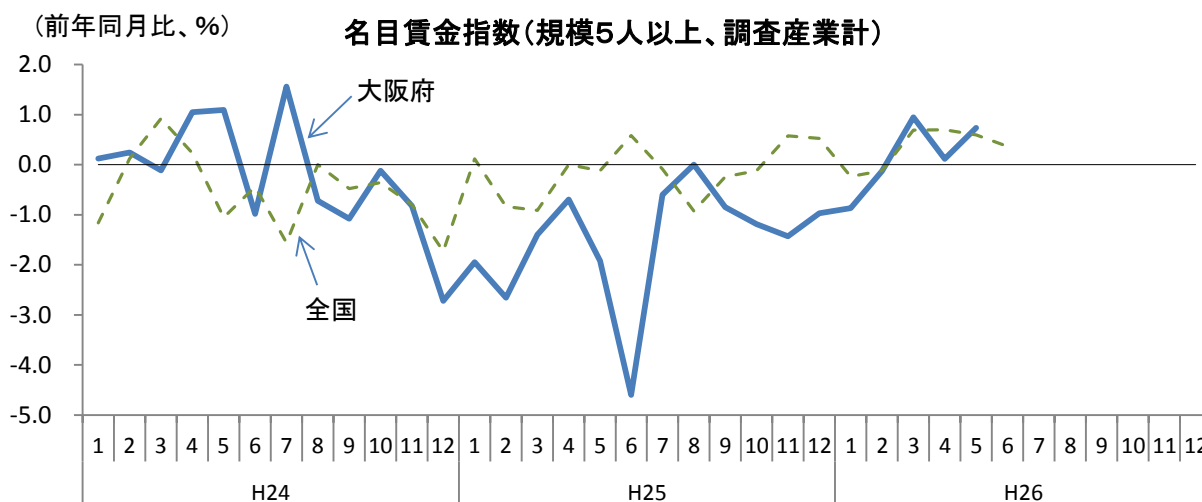
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」
 ※事業所規模5人以上、前年同月比は労働時間指数(H22=100)による。

		26年4月	5月	6月
H22=100	大阪府	119.8	113.5	
前年比 (%)	大阪府	8.5	8.9	
	全国	6.4	4.9	P 2.9

産業別所定外労働時間の主な増減 (大阪府、前年同月比(%))、5月)

増加	生活関連サービス業、娯楽業(58.3) 運輸業、郵便業(19.6)、 複合サービス業(15.8)
減少	学術研究、専門・技術サービス業(▲22.6)、 教育、学習支援業(▲16.9)、 電気・ガス・熱供給・水道業(▲11.1)

○名目賃金指数【大阪府(5月)は3ヶ月連続の増加。】



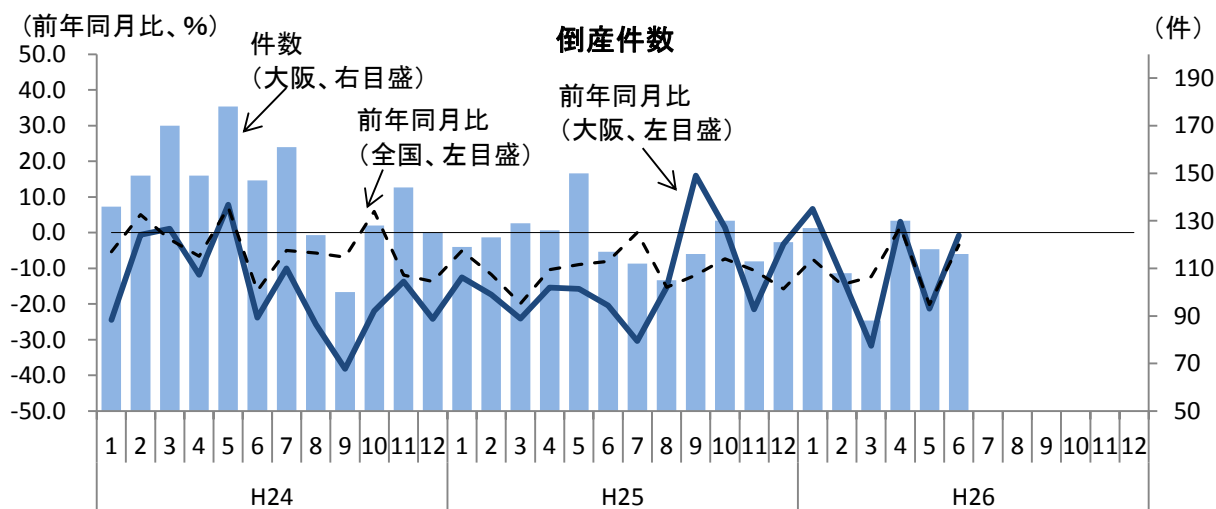
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」
 ※前年同月比は名目賃金指数(H22=100)による。

		26年4月	5月	6月
現金給与総額(円)	大阪府	291,900	279,366	
前年比 (%)	大阪府	0.1	0.7	
	全国	0.7	0.6	P 0.4

※前年比は名目賃金指数(H22=100)による。

[供給] 雇用・倒産

○倒産【倒産件数は2ヶ月連続の減少(改善)、負債金額は2ヶ月連続の増加(悪化)。】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

倒産件数

		26年4月	5月	6月
件	大阪府	130	118	116
前年比	大阪府	3.1	▲21.3	▲0.8
(%)	全国	1.6	▲20.1	▲3.5

負債金額

		26年4月	5月	6月
億円	大阪府	86	122	178
前年比	大阪府	▲47.6	9.5	64.9
(%)	全国	▲79.4	▲0.3	▲49.9

主要業種の倒産件数(大阪府)

	26年4月	5月	6月
建設業	32	20	14
製造業	19	23	20
卸売業	18	26	22
小売業	16	17	15
サービス業	32	25	29

主な倒産(大阪府、6月)

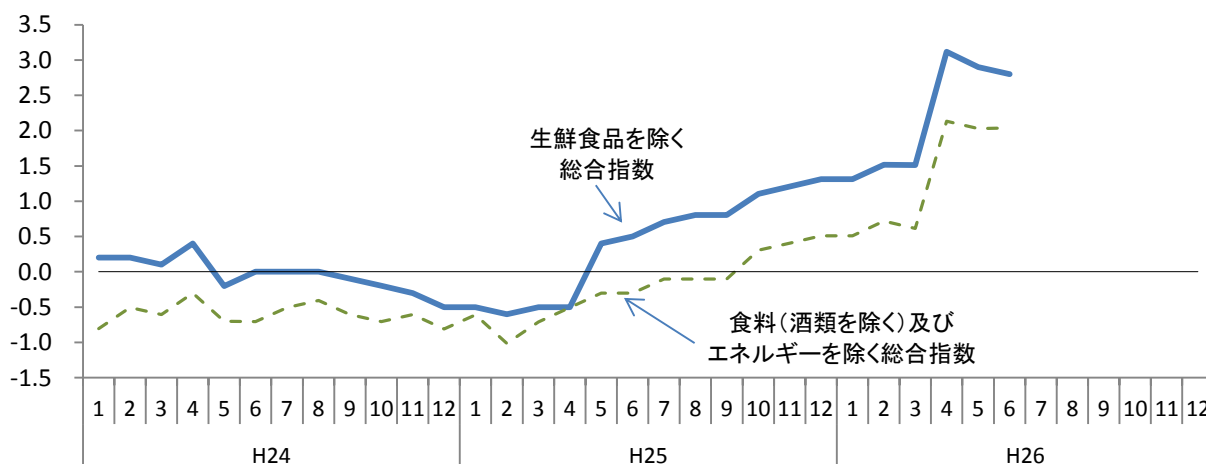
業種	負債額 (百万円)	倒産原因
事務代行	3,249	放漫経営
貨物自動車運送業	2,850	販売不振
工作機械製造	1,308	既往のシワ寄せ
注文住宅建築工事	1,172	販売不振
産業廃棄物収集	1,114	他社倒産の余波
産業廃棄物収集運搬、処理	1,032	販売不振
建築装飾パネル・金物製造ほか	732	設備投資過大

[その他] 物価

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は14ヶ月連続で上昇。「食料」、「光熱・水道」が上昇に寄与。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は9ヶ月連続で上昇。】

(前年同月比、%)

消費者物価指数(大阪市)



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」 ※H22=100

生鮮食品を除く総合指数(H22=100)

		26年4月	5月	6月
指数	大阪市	102.5	102.9	P 102.8
前年比 (%)	大阪市	3.1	2.9	P 2.8
	全国	3.2	3.4	3.3

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数(H22=100)

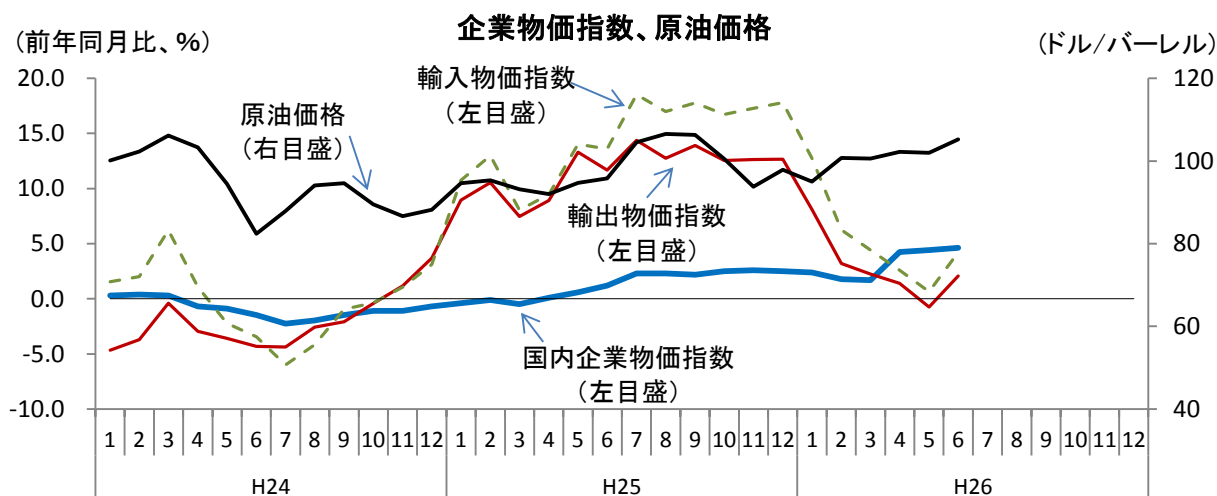
		26年4月	5月	6月
指数	大阪市	100.5	100.5	P 100.2
前年比 (%)	大阪市	2.1	2.0	P 2.0
	全国	2.3	2.2	2.3

総合指数において主に変動した分類
(大阪市、前年同月比(%)、寄与度順、6月速報)

上昇	食料(4.1): 果物(オレンジ、レモン、グレープフルーツ)、魚介類(さんま、たこ、さけ)
	光熱・水道(7.0): ガス代(都市ガス代、プロパンガス)、他の光熱(灯油)
	教養娯楽(4.6): 教養娯楽用品(ペットフード(キャットフード)、がん具自動車)、教養娯楽用耐久財(パソコン(デスクトップ型))
低下	—

[その他] 物価

○企業物価指数【国内企業物価指数、輸出物価指数、輸入物価指数はいずれも上昇。原油価格は上昇。】



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、IMF「Primary Commodity Prices」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。物価指数は H22=100。

企業物価指数 (前年同月比 (%))

	26年4月	5月	6月
国内企業物価指数	4.2	4.4	P 4.6
輸出物価指数	1.4	▲0.7	P 2.1
輸入物価指数	2.6	0.6	P 4.2

原油価格 (WTI)

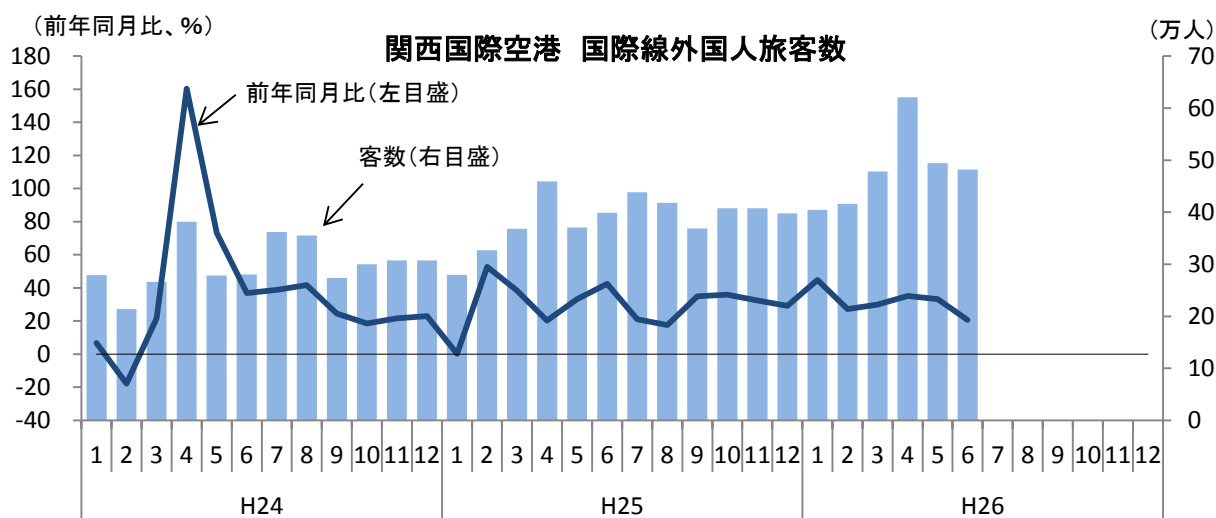
	26年4月	5月	6月
ドル/バーレル	102.18	102.00	105.24

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した
主な類別・品目 (6月速報、寄与度 (%))

石油・石炭製品 (0.07) : ガソリン、軽油、A重油、灯油
化学製品 (0.04) : キシレン、パラキシレン、ベンゼン、合成染料
電力・都市ガス・水道 (0.02) : 業務用高压電力、上水道、産業用特別高压電力、産業用高压電力
生産用機器 (▲0.01) : 農業用トラクタ・耕うん機、マシニングセンタ

[その他] 観光

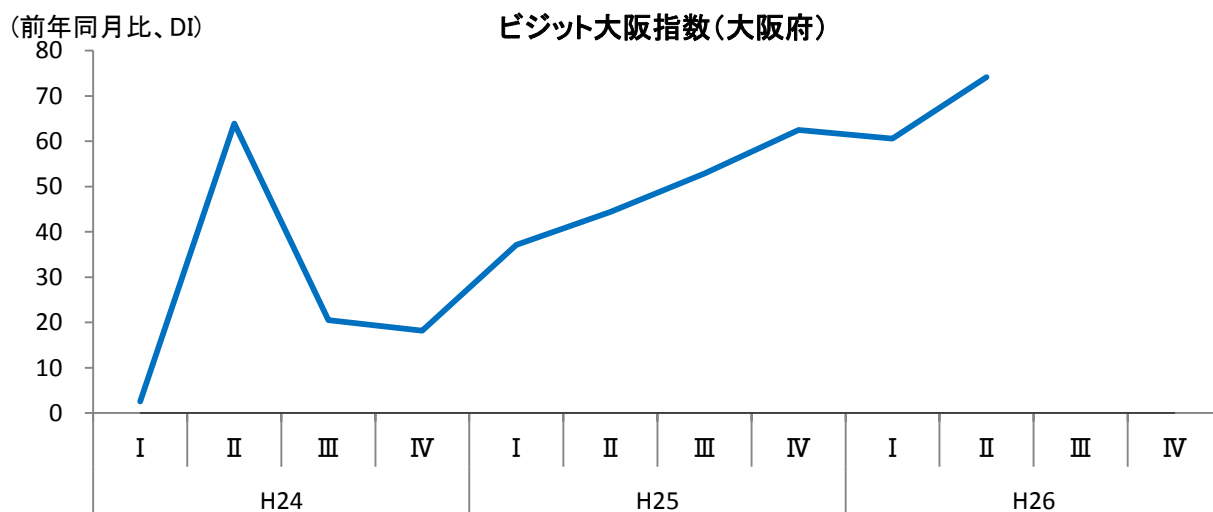
○関西国際空港 国際線外国人旅客数【28ヶ月連続で増加。】



（資料）新関西国際空港(株)「運営概況」

	26年4月	5月	6月
万人	62.1	P 49.4	P 48.2
前年比(%)	35.1	P 33.3	P 20.7

○ビジット大阪指数(DI)【前年同期比で、4～6月期は上昇。】



（資料）大阪府都市魅力・観光課「大阪府観光統計調査」

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

	25年 10～12月	26年 1～3月	4～6月
業況判断DI (前年同期比)	62.5	60.6	74.2